



お知らせ

記者発表資料	令和元年7月16日
配布日	

資料提供先：岡山県政記者クラブ

平成30年水質事故発生状況について (岡山三川水質汚濁防止連絡協議会 事務局受報分)

平成30年の岡山三川（吉井川水系・旭川水系・高梁川水系）の水質事故発生状況（岡山三川水質汚濁防止連絡協議会 事務局受報分）について、別紙のとおりお知らせします。

※「岡山三川水質汚濁防止連絡協議会」は、岡山河川事務所を事務局として、岡山県、広島県、流域市町村、消防組合及び水道企業団を含む56団体（別表1）で組織されています。

この協議会は、岡山三川（吉井川、旭川、高梁川）における水質事故への迅速な対応や水質保全、水質事故の未然防止を図ることを目的として、平成3年に発足しました。関係機関の相互連絡を密に取り合いながら、各水系で一貫した水質事故への対応を行い、流水の正常な機能の維持、事故の未然防止に努めています。

問い合わせ先

岡山三川水質汚濁防止連絡協議会
事務局

国土交通省 中国地方整備局 岡山河川事務所
電話 086-223-5196（防災情報課直通）

【担当】

総括保全対策官 かしはら 柏原 よしひこ 良彦（内線308）

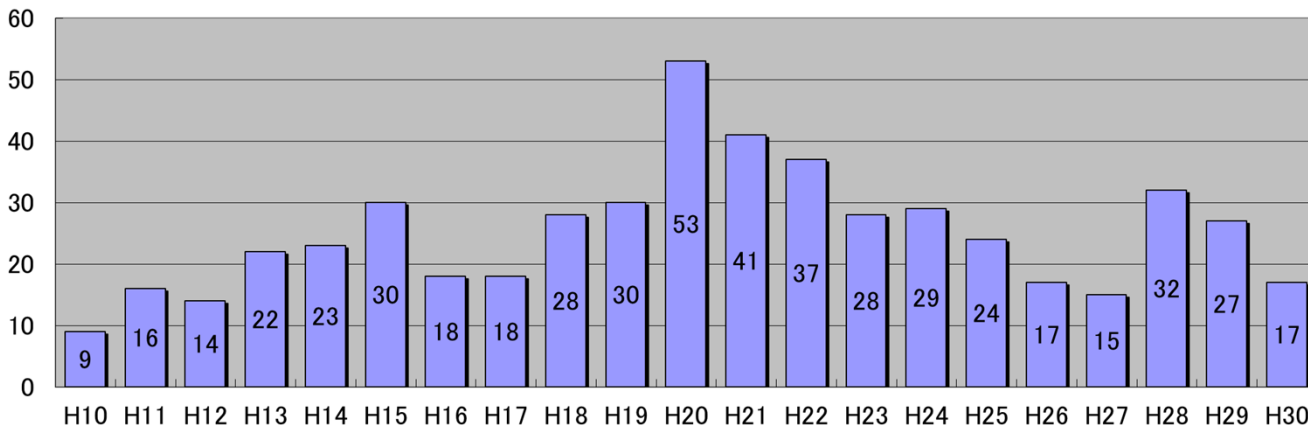
防災情報課長 こんの 今野 あらた 新（内線281）

平成30年水質事故発生状況(岡山三川水濁協事務局 受報分)

(1)水質事故事務局受報件数

水質事故受報件数は図に示すとおり、平成13年から20件から30件程度で推移し、平成20年に水濁協への参加機関を拡大したところ受報件数が大きく増加しました。その後は減少傾向にありましたが、28年に32件、29年に27件と大幅に増加しました。平成30年は高梁川水系で6件、旭川水系で6件、吉井川水系で5件、三川全体で17件の水質事故を受報しました。

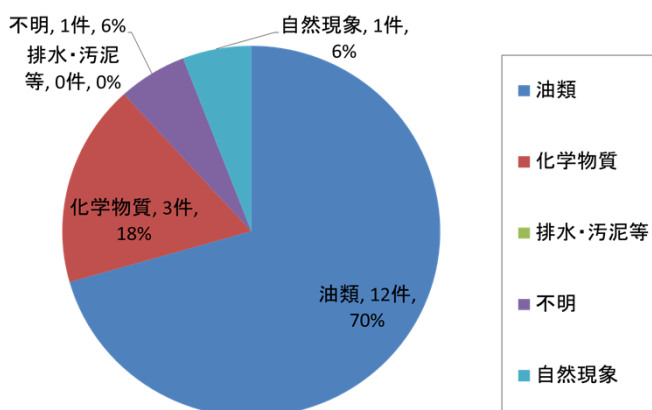
件 岡山三川水濁協の事務局受報件数



(2)水質事故の発生事象

発生事象別では「油類の流出」が12件と大多数を占めています。続いて「化学物質」が原因の事故が3件発生しています。不明は、魚のへい死がありました。

H30水質事故の発生事象別(事務局受報分)



(3)水質事故の発生原因

発生原因別では、「交通事故」によるものが最も多く6件、続いて「操作ミス」によるものが5件、次に「機械の故障」が3件、原因不明のものが2件発生しております。

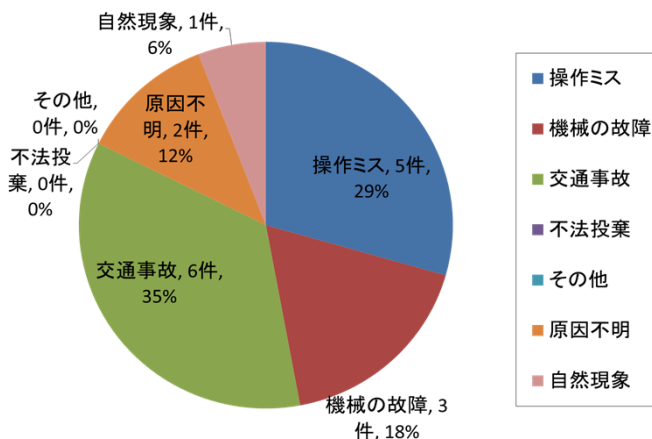
「操作ミス」とは、原因物質の取り扱いに際して人為的なミス（排水処理の管理不足）により生じた事故です。

「機械の故障」とは人為的なミスによらない機械（タンクや配管等の設備も含む）の故障、経年劣化・腐食などによる損傷により生じた事故です。

「交通事故」とは、自動車の転落事故によって河川へ直接燃料が流出したり、接触事故などによって燃料タンクなどから油が流出して水路等を経由して河川へ流出した事故です。

「自然現象」とは人間活動が直接の原因ではないもので濁水が原因の酸欠による魚のへい死やアオコ等、自然現象であることが断定できるものを指します。

H30水質事故の発生原因別(事務局受報分)



「岡山三川水質汚濁防止連絡協議会組織一覧」

所 属	担当部局	所 属	担当部局
中国地方整備局 岡山県	岡山河川事務所	井原市	市民生活部
	高梁川・小田川緊急治水対策河川事務所	総社市	環境水道部
	苫田ダム管理所	高梁市	市民生活部
	危機管理課	新見市	福祉部
	環境文化部	備前市	市民生活部
	保健福祉部	瀬戸内市	環境部
	農林水産部	赤磐市	市民生活部
	土木部河川課	真庭市	生活環境部
	土木部都市局	美作市	市民部
	備前県民局建設部	和気町	民生福祉部
	(東備地域事務所)	矢掛町	町民課
	備中県民局建設部	新庄村	産業建設課
	(井笠地域事務所)	鏡野町	くらし安全課
	(高梁地域事務所)	勝央町	健康福祉部
	(新見地域事務所)	奈義町	税務住民課
	美作県民局建設部	西粟倉村	建設課
	(真庭地域事務所)	久米南町	建設水道課
	(勝英地域事務所)	美咲町	住民税務課
	企業局	吉備中央町	住民課
	警察本部	津山圏域消防組合消防本部	警防課
広島県	土木建築局	笠岡地区消防組合消防本部	警防課
岡山市	環境局	井原地区消防組合消防本部	警防課
	水道局	東備消防組合消防本部	警防課
	下水道河川局	岡山県広域水道企業団	浄水課
倉敷市	環境政策部	岡山県南部水道企業団	施設課
	環境リサイクル局	備南水道企業団	工務課
	水道局	岡山県西南水道企業団	施設課
津山市	環境福祉部		
	水道局		